

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	重要文化財(建造物)	旧木原家住宅 附 瓦葺 1個	きゅうきはらけじょうたく	1棟	東広島市高屋町白市	昭34.7.15(県指定) 昭41.6.11	桁行12.6m、梁間15.5m、切妻造、一部二階、本瓦葺		江戸時代初期の町屋建築。寛文5年(1665)建築と推定される。表通りに沿って横長に建てられ、正面右側に入口と土間、左側に店と座敷、裏に居住空間が設けられ、土間が表と裏をつないでいる。入口には大戸(おおと)が付けられ、店の表側には格子戸(こうじ)が入られている。町屋形式の古い形態を保存する数少ない例である。 木原家は西条盆地の東方の白市に居住し、江戸時代(1603～1867)は醸造業や両替商を主とする豪商であった。		
国	重要文化財(建造物)	竹林寺本堂 附 厨子 1基 椽札 1枚	ちくりんじほんどう	1棟	東広島市河内町入野	昭42.5.8(県指定) 昭57.6.11	本堂ノ桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、向拝一間、こけら葺 厨子ノ桁行一間、梁間一間、入母屋造、妻入、板葺		標高535mの置山(たかむらやま)山頂に建つ16世紀の建物で、永正8年(1511)に屋根や柱組みが造られた後、天文14年から17年(1533～1536)須弥壇などを整えて完成した。須弥壇板裏に天文14年の墨書があり、高屋や入野の木工が工事にあたったことが分かる。 規模の大きな方三間の堂で、軒先など当初の材がよく残されている。木割が太いので比較的しっかりした感がある。16世紀の瀬戸内地方の寺院建築の好例である。 竹林寺は真言宗寺院で、中世には平賀氏の祈願寺のひとつであった。		
国	重要文化財(建造物)	福成寺本堂内厨子及び須弥壇 附 曳板 1点 板絵(応永二十一年)10枚	ふくじょうじほんどうないずしおよびしめみだん	1具	東広島市西条町下三永字西谷	平12.12.4	入母屋造、妻入り、一間厨子、禅宗様須弥壇		須弥壇とそこに置かれた厨子1具で、厨子内部には福成寺本尊の千手観音菩薩が安置されている。15世紀前期に造られたと推定される。 厨子は入母屋造、板葺、妻入の寄殿(くうでん)形式であり、また、垂木(たるき)大口(こぐち)の鉤金具に、瀬戸内西部地方の大守護大名・大内氏の家紋である唐花菱紋(からばなびしもん)があり、その形が応永27年(1420)大内盛見(おうちもりはる)寄進の豊前国(大分県)宇佐八幡宮所蔵の御興の唐花菱紋金具と酷似していることから、当時の大内氏当主・大内盛見が遠隔より造られたと考えられる。 なお、附の板絵は応永21年(1414)頃の製作である。 福成寺は東広島市の東南端に位置する真言宗寺院である。中世には西条盆地を政治的拠点とした大内氏により、この地域の宗教的拠点として保護された。		関連施設: 福成寺宝物収蔵庫 (082-426-0523, 082-423-3486)
国	重要文化財(考古資料)	広島県安芸国分寺跡土坑出土品 木簡 82点 墨書土器 42点 土器 78点 木器・木製品 50点	ひろしまけいんあきこくぶんじあとことうしゅうつひん	252点	東広島市西条町	令和5.6.27			安芸国分寺跡にて発見された木簡、土器等多量の遺物が埋められた大型土坑(ごう)からの出土品一括、全252点。 木簡、土器、瓦、服飾具や祭祀具などで構成され、国分寺(こくぶんじ)建立に(んりゅう)の詔(みことり)(741年)から9年目である「天平勝宝(てんぴょうしょうぼう)2年」(750年)の紀年がある木簡をはじめ、「安居(あんこ)」、「齋会(さいかい)」などの仏教行事や「佐伯郡(さへびぐん)」、「山方郡(やまがたぐん)」など安芸国内の郡名が記された墨書土器、角筆や物指などの木製品が目立っている。 これらは、国分寺で勤修された諸法会(ほうえ)で用いた物品や再礼などを一括で廃棄したものと考えられ、当時の仏教行事の一端を示す資料として、学術的価値が高い。		関連施設: 東広島市出土文化財管理センター(082-420-7890) 写真提供: 東広島市教育委員会
国	重要文化財(歴史資料)	身幹機(星野木骨) 附 木箱	しんかんぎ(ほしのもくこつ)		東広島市鏡山	H16.6.8	木造、胡粉塗り仕上げ		江戸時代後期の広島医師、星野良悦(ほしのりょうえつ)が漢語の解剖で得た人骨により、工人原田孝次に模刻させた木製の人体骨格模型である。寛政4年(1792)ごろの製作と推定されている。 寛政10年(1798)江戸で杉田玄白(すぎたげんぱく)・大槻玄沢(おつぎげんたく)ら蘭学者からその精巧さを絶賛され、さらに一8436544を作成し寛政12年(1800)幕府の医学館に献上した。 人体の骨格構造を 精密に知る機会を与え、江戸時代の医学・蘭学の発達に寄与した点で、医学史上に重要である。 ※星野良悦 1754～1802、広島町医師		関連施設: 広島市医学資料館(082-257-5099)
国	史跡	安芸国分寺跡	あきこくぶんじあと		東広島市西条町吉行	昭11.9.3 昭52.6.29(追加指定、名称変更) 平14.3.19(追加指定)			西条盆地の東北部、北に山をいり南に盆地の低平地を望む緩やかな傾斜地に位置する。 昭和7年(1932)寺域の南西に存在した聖武天皇の玉歯を埋めたと伝えられる塚状の地点を発掘したところ、基礎と礎石群が検出され、塔跡が明確になり、昭和11年(1936)に安芸国分寺塔跡として史跡に指定された。 昭和44年(1969)以降平成12年(2000)まで12次の発掘調査が行われ、奈良時代の遺構は、門、金堂、講堂、僧坊が南北の伽藍中軸線上に配置されており、北辺では築地と溝があったと推定される。 なお、南方5kmの三永水源地北畔には、国分寺と同様な瓦を出土する窯跡があり、この付近で国分寺の瓦を生産したと考えられる。		
国	史跡	三ツ城古墳	みつじょうこふん		東広島市西条町御園寺	昭57.6.3			西条盆地の南縁の丘陵端部に、前方部を北に向けて所在する前方後円墳である。全長約92m、前方部幅約67m、高さ約11m、後円部径約62m、高さ約13mで、後円部の背後に径25mの円墳1基(第2号古墳)第2号古墳の周溝内に径8×4mの墳丘をもつ第3号古墳がある。 第1号古墳の墳丘は墓石(ふさいい)で覆われ、地輪を3段にわたって巡らし、東西に造出がある。後円部頂部には横(か)を有する箱式石棺2基、箱式石棺1基の埋葬施設があり、鏡、鉄器、刀、剣、櫛(そく)など、銅輪(どうしる)、玉、玉環(たまたま)、玉玉(たまたま)などが出土した。銅輪には円筒のほかに家形・短甲・鶏などがあり、造出から土師器、須恵器類が出土した。古墳時代中期(5世紀)に築かれた古墳と考えられ、安芸国最大の規模からすると、安芸国を統一する首長の出現を示すものと言える。		関連施設: 東広島市立中央図書館 - 三ツ城ガイダンスコーナー (082-422-9449)
国	史跡	鏡山城跡	かがみやまじょうあと		東広島市鏡山二丁目	平10.1.14			室町・戦国時代(15～16世紀)には、西条盆地と黒瀬川の downstream 一帯は、安芸国東西条(うじさいじょう)と呼ばれ、当時、瀬戸内海地域に大きな勢力をもっていた防長大名大内氏の直轄領であった。鏡山城は、この一帯を支配する拠点となっていた。 鏡山城の時期は不明であるが、15世紀ごろにはできていたものと思われる。戦国時代後半になると城は大内氏と尼子氏の争奪の場となったが、ついに大永3年(1523)に毛利元就の軍勢を先鋒とする尼子経久のため陥落した。この後大内氏はこの地方の本拠を西方の鞆山(つやま)城に移す。 現在、城跡には、墓道、下の池、中の池、御殿場など削平された跡(くわ)や井戸が残り、また西南麓には鏡見寺跡が残っている。		
国	史跡	西条酒蔵群 白牡丹酒造延宝蔵 賀茂鶴酒造一舟蔵 旧広島醸造試験場(賀茂泉酒造) 福美人酒造大黒蔵	さいじょうさかづくらん		東広島市西条本町、西条上市町、西条末広町	令和6.2.21			西条酒蔵群は、西条盆地北部に所在する旧西国街道の宿場町西条の、近世に始まり近代に発展し、現在も続く全国屈指の酒蔵群である。西条では、文化2年(1805)には島家が酒造を行っていたことが記録に見え、明治20年代末に行われた三浦仙三郎による軟水醸造法の確立、明治27年(1894)の山陽鉄道広島駅までの延伸、木村酒造場におけるいち早い動力式精米機の使用などにより、明治40年(1907)には広島酒が全国で認められるに至っていた。 指定物件は、西条で最初期より酒造を行ってきた島家の白牡丹酒造の延宝3年(1675)建設とされる延宝蔵、木村酒造場の後継である賀茂鶴酒造の明治初期建設の一舟蔵、昭和4年(1929)建設の旧広島醸造試験場、当時の西條町長の発起で造られた西條酒造株式会社の後継会社である福美人酒造の、大正14年(1925)に建設された西条で最大の酒蔵である大黒蔵である。 西条酒蔵群は、旧西国街道沿いの町家の背後に建てられた小規模な酒蔵から、近代以降町並みの背後の高地地帯を利用した大規模な酒蔵へと発展していく様子を理解することができる。また、近代酒造業の拡大の変遷を追うことのできる歴史的に重要な酒蔵群である。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考	
県	重要文化財(建造物)	観現寺厨子	かんげんじずし	1基	東広島市西条町御園宇字勝谷	平4.10.29			厨行一間1.63尺(0.494m)、梁間一間1.22尺(0.37m)、総高2.93尺(0.888m)、如意頭	頭貫(かしらぬき)本鼻の模様や幕股(かえるまた)その他の技法からみて、室町時代中期(15世紀後期)の製作と考えられる。規模は小さいが、軸部の組み方は本格的なものであり、本鼻の縁形(くりかた)や斗肘木(とじき)の形状、如意頭(にいがしら)の縁形(くりかた)など、室町時代中期の建築的特徴を有し、製作技術も優れたものであって、室町時代(14世紀～16世紀)の安芸地方の建築様式を知る上で、貴重な資料である。 観現寺は西条盆地の中央部、黒瀬川の左岸近くにある。		
県	重要文化財(絵画)	紙本著色竹林寺縁起絵巻	しほんちゃくしょくちりんじえんぎえまき	2巻	東広島市河内町入野	昭31.3.30			紙本著色	室町時代(1333～1572年)の作で、漢文調の韻書と絵を交互に配した長巻である。行基にまつわる竹林寺の創建と小野篁(おののたから)伝説を記している。 竹林寺は河内町市街地の南方にそびえる霊山山頂に位置する真言宗の古刹で、中世、国人領主平賀氏の保護を受け栄えていた。 ※小野篁(802～852)…平安時代初期の学者・漢詩人・歌人		
県	重要文化財(彫刻)	僧行賢関係遺品 石造不動明王立像 1軀 石造多聞天立像 1軀 石造地藏菩薩立像 1軀 石造供養碑 2基 石造水槽 1口	そうぎょうけんかんけいゐひん	6点	東広島市高屋町中島	昭31.3.30			石造 不動明王/像高51cm、高さ82cm 地藏菩薩像/像高51cm、高さ1m	鎌倉時代後期から南北朝時代(13世紀後半～14世紀)にかけて、僧行賢が発願して作つたといわれる石造物群。東広島市高屋町稲木を中心に分布する。行賢については詳細不明である。 虎長楽寺跡にある石造不動明王は船形光背(ふながたこうはい)に彫刻彩色され、元享2年(1322)の銘がある。その彫刻的な作風や独自の形式から、行者系彫刻の先駆的なものとして注目される。共存する多聞天(たもんてん)も像高は1mと同様の作と考えられる。 ここら西品寺に選ばれた水槽(みずづゐ)は石製湯槽とも推測されており、縁上面(ふちよめん)に元享2年銘が刻まれている。 稲木西山の廣西福寺跡付近の供養碑(板碑)2基のうち1基には法華経背誦品(ほけきょうひつぼん)の1節がある。他の1基は正中2年(1325)銘がある僧入連の供養碑である。背後に立つ地藏菩薩(じそうぼさつ)像は石に彫刻され背面に暦元4年(南朝年号、1341)銘がある。		
県	重要文化財(彫刻)	木造地藏菩薩半跏像	もくぞうじそうぼさつはんかぞう	1軀	東広島市河内町入野	昭38.11.4			寄木造、漆箔 像高94cm、膝張48cm	この像は竹林寺の子院のひとつである乾蔵坊の本尊であったものである。漆箔、樟材のすぐれた作で、右手に錫杖、左手に宝珠を持ち、右半跏(はんか)で左足をのびた姿で台座に坐っている。この菩薩像はかつてひどく破損していたため、その胎内銘が知られているが、それによると建武5年(1338)の作という。		
県	重要文化財(彫刻)	木造釈迦如来坐像	もくぞうしゃかにょらいざぞう	1軀	東広島市安芸津町上立花	昭53.1.31			寄木造、複合装飾蓮座、水煙透彫の舟形光背、玉眼 像高41cm、膝張32cm 光背/縦90.5cm、46.5cm 白座/高さ37.5cm	当初のままの光背(こうはい)を背に両手を定印(じょういん)に結び、これも当初のままの複合装飾蓮座に坐るこの仏像は、頭髪を細密な螺旋(らせん)状に表し、頭頂肉髻を小型で高くした室町時代中期(15世紀)と思われる時代的特色をよく表している。白毫は透明で、眼は玉眼である。像は下地に黒漆を掛け、その上に金箔を貼った金色(一部後補)でその法衣の上に描かれた唐草文の痕も製作時代を知る手がかりとなる。舟形に作られた光背は、上部及び左右に都合3個の化仏(けぶつ)を彫し、化仏を中心に水煙の昇る状態を透彫(すかしぼり)で表した珍しい遺品であるが、左方上部の一部を欠失しているのは惜しむべきである。 ※肉髻(にっけい)…仏の姿を表す三十二面相の一つで頭頂の髻(まげ)の形をした部分 ※白毫(びやくごう)…仏の姿を表す三十二面相の一つで仏の眉間にあつて光明を放つとされる		
県	重要文化財(彫刻)	木造薬師如来坐像	もくぞうやくしにょらいざぞう	1軀	東広島市西条町吉行	昭60.3.14			一木造 像高130cm、膝張り100cm	平安時代後期(11～12世紀)の作。国分寺の薬師堂に安置される。一木造のいわゆる丈六像と言われる巨像である。顔の長さは47cmとなり大きく、螺旋(らせん)は切り込み式に仕上げ、肉髻が見られる。顔には白毫を嵌(は)め、目を木眼につる。耳は長大で耳朶は貫乳につる。唇は引き締まり、面相は雄渾に見える。顔には三道を表わしている。平安時代末期の源平の戦い(1184～1185)の時に火災にあい、その後修理が行われたが、江戸時代の宝暦9年(1759)再び火災にあい、その痕を留めている。 ※肉髻(にっけい)…仏の姿を表す三十二面相の一つで頭頂の髻(まげ)の形をした部分 ※白毫(びやくごう)…仏の姿を表す三十二面相の一つで仏の眉間にあつて光を放つという		
県	重要文化財(彫刻)	木造薬師如来坐像	もくぞうやくしにょらいざぞう	1軀	東広島市西条町寺家	昭60.3.14			寄木造 像高97cm、膝張68cm	長福寺に伝わる寄木造の仏像。膝裏及び胴裏削りの手法、漆塗り下地の布貼り手法などから室町時代初期(15世紀)の作と推測される。一部の法衣の彫刻線に翻波(ほんば)文的技法が見える。なお、顔面や胸肌、手先などに艶消し金色を塗り、法衣の無文黒色仕上げはまさしく室町時代の仏像にも表われる当代の彩色表現法である。また、髪際が下がらず直線的になるのは当代の上期の作の特徴である。		関連施設:長福寺宝物収蔵庫(082-423-4143)
県	重要文化財(工芸品)	銅鐘	どうしやう	1口	東広島市西条町下三永	昭28.6.23			銅製 総高126cm、口径69cm	室町時代・寛正2年(1461)福成寺(ふくじやうじ)に奉納された銅鐘。現在の三原市を中心に活動した鑄物師(いもじ)「三原鑄物師」の作品である。鐘身に作者名「宗吉」や奉納された寛正2年の年号などが刻まれている。 三原鑄物師は中世の広島県地域を代表する鑄物製作者たちであり、鎌倉時代(1192～1332)以後、瀬戸内海中部地方各地で銅鐘などを製作した。 福成寺は中世以来の古刹であり、中世の西条盆地を支配した周防大内氏と深い関係を持っていた。		関連施設:福成寺宝物収蔵庫(082-426-0523、082-423-3486)
県	重要文化財(工芸品)	金銅唐草文板蓮華文金具置戒体箱	こんどうからくさもんいたれんげもんかなくおきかいたいはいこ	1合	東広島市西条町下三永	昭59.11.19			木製金銅装 縦37cm、横12.7cm、高さ8.7cm	福成寺(ふくじやうじ)に伝わる室町時代末期(16世紀)製作と推定されている戒体箱。木製で、周囲を金銅製の板で覆っている。長方形で、蓋と身がわかれ、身の下部は格状開(こうさ)の透かしが入った脚になっている。底板の四方縁辺部に「二三・三四の数字が墨書してある。 ※戒体箱…密教灌頂(かんじやう)と呼ばれる仏教儀式の会場で用いる、戒文を納める箱		関連施設:福成寺宝物収蔵庫(082-426-0523、082-423-3486)

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	重要文化財(工芸品)	金銅輪宝期唐文置説相箱	こんどうりんぼうかつまもんおきせつばこ	1合	東広島市西条町下三永	昭59.11.19	木製金銅装	縦33.5cm、横24.5cm、高さ11cm	福成寺(ふくじょうじ)に伝わる。室町時代末期(16世紀)製作と推定される説相箱。長方形の木製箱で、側面に金銅製の飾り金具が取り付けられている。下部は高台(こうだい)状の脚になっており、格狭間(こうさま)の透かしが入る。底板の四方縁辺部に「一・二・三・四」の数字が墨書してある。 ※説相箱…僧侶が仏教儀式の時に用いる衣や法具、原稿などの必要なものを納めて傍に置いた箱。居箱(げばこ)とか接僧箱(せつそうばこ)とも呼ばれている。		関連施設:福成寺宝物収蔵庫(082-426-0523、082-423-3486)
県	重要文化財(典籍)	知新集	ちしんしゅう	25巻25冊	東広島市鏡山一丁目	昭41.4.28	和装本袋とじ、楮紙	縦26.4cm、横20.0cm	「知新集」は、江戸時代における広島町奉行管内(町組と新開組、すなわち旧広島市域)の地誌としてほとんど唯一で、しかもきわめて詳細な文献で、広島藩地誌「芸藩通志」の編集の下調査書の一つである。西町奉行音楽馬、町役人の山泉屋、安田屋らが史料を集め、更に藩士で文人の飯田利矩(萬老)とひろがが主任として加わって文政2年(1819)から文政5年(1822)までの間に整理編纂されたものである。第4巻には国名を群名・県名と並べ、第2巻から第8巻までは広島五組及び新開について町村別に詳説している。第9巻から第24巻は寺社別的位置、沿革、第25巻は広島城のことを記している。「新修広島市史」の第六巻「資料編その一」に全巻収録されている。		
県	重要文化財(典籍)	紙本墨書大般若経 附 中箱 60箱	しほんぼくしよだいはんにゃきょう	600巻	東広島市豊栄町乃美宮迫	昭42.5.8	紙本墨書、折本		この大般若経の主体をなすものは、平安時代の建久元年(1190)増延増が、商人からかなりまとまった本経典の一部を入手し、欠巻を、増延増自ら補写して完本としたものである。したがって、それらは平安時代中期(10～11世紀)ごろの書写と認められるもの、保安4年(1123)書写の奥書を有するものなどがあつた。「永久五年(1177)編工部百代主殿首山永繼」が寄進した旨の奥書を有するものが特に多い。また、鎌倉時代(1192～1332)の補写や版本も交っている。 嘉慶2年(1387)政信が堀内に勧進して小箱60個を寄進し、文明9年(1477)則光の幸福寺において経巻を修復した。江戸時代に散逸したが、延享3年(1746)乃美村庄屋児玉政勝以下の寄進をもって凡そ100巻余に及ぶ欠巻を補い、前欠、後欠等の補写を行って完備させた。		
県	重要文化財(典籍)	福成寺文書 附 福成寺縁起文 1巻	ふくじょうじもんじよ	9通	東広島市西条町下三永	昭53.10.4	軸装		福成寺に伝わる南北朝時代(1333～1392)から安土桃山時代(1573～1602)にかけての9通の文書群。西条盆地の歴史を知るうえで貴重な資料である。 後醍醐天皇論旨(りんじ)と後村上天皇論旨は福成寺が建武政権の庇護を得、南朝勢力の拠点であったことを示す。毛利弘元書状は山口の氷上山興隆寺(大内氏の氏寺)別当宛で、室町戦国時代に東西(西条盆地と黒瀬川下流域)が大内氏直轄領でこの寺がその精神的拠点であった時期のもの。天文12年(1584)6月付の毛利輝元書状と同奉行人運番兼制伊予の河野通直が土佐の長宗我部氏の攻撃を受け、毛利氏の救援を求めて西条に避難し、この寺で祈願を乞いしたことを示す史料である。 福成寺は西条盆地東側の海拔500m余の山の上にある真言宗の古刹で、寛仁年中(1017～21)に現在地に寺地を移したと言われる。南北朝時代から室町時代(14～16世紀)にかけて大内氏と関係を深め、山口興隆寺末寺になっている。		
県	重要文化財(典籍)	紙本墨書大般若経 附 経櫃 3種 中箱 60箱	しほんぼくしよだいはんにゃきょう	583帖	東広島市志和町志和堀	平9.5.19			南北朝時代の正平20年(1365)10月天野遠藤が願主となって志芳(しわ)庄八幡宮(現在の大宮神社)に寄進した大般若経である。天野遠藤は志和地頭天野氏一族と推定される。 卷子装であったが、後に折本装に改装されている。600巻のうち17巻が失われているだけで、471帖はほぼ全形を現存しており、広島県の中世史を語る貴重な資料となっている。 また、経櫃3合・中箱60合が伝えられている。		
県	重要文化財(考古資料)	白鳥古墳出土品 三角縁獣文帯三神三獣鏡 1面 三神三獣鏡 1面 碧玉製勾玉 1点 素環頭大刀 1口	しらとりこふんしゅつびん		東広島市高屋町郷	昭62.12.21		三角縁獣文帯三神三獣鏡 / 三神三獣鏡 / 直径16.4cm 碧玉製勾玉 / 長さ3.1cm 素環頭大刀 / 現存長69.8cm	白鳥古墳は、東広島市高屋町郷の白鳥山(標高453m)山頂にあつたと言われているが、明治43年(1910)白鳥神社敷造営時に破壊されたものらしく、古墳の規模や形状は明らかでない。この時、三角縁獣文帯三神三獣鏡(さかふんしゅつびん)と碧玉製勾玉(ひよこま)と素環頭大刀(そかんとうち)1口などが出土したと伝えられている。これらの遺物の年代は、鏡の図や素環頭大刀の存在などを西暦400年を前後する時期と考えられる。国産の三角縁獣鏡を含むこの時期の古墳の一括遺物としては、県内では他に例が少な貴重な遺物である。		
県	史跡	野坂完山之墓	のさかかんざんのはか		東広島市西条町下見宇蓮花寺	昭29.1.26			完山は、天明5年(1785)寺家村に生まれ、家業を継ぐため、広島、京都に留学し漢方医学を深めた。完山の修めた医学は、西洋医学摂取の土壌となった漢方医学の知識と技術であり、名声を聞いて数えを乞う者は日本各地に及んでいた。また、完山は、自然や社会の観察、認識に非凡なものを示しており、医書のほかに地誌「芸備大帳外史」などの著述がある。特に、生涯書き綴ったといわれる「鶴亭(かてい)日記」56巻は文化史、社会経済史の貴重な資料となっている。 この墓は、嘉永6年(1853)、完山の13年忌に門人百余名によって建てられたもので、門人江木鶴水(えぎかすい)の撰文になる墓碑銘がある。		
県	史跡	平賀氏の遺跡 御宇城跡 白山城跡 頭崎城跡 平賀氏の墓地	ひらがしのいせき(みそのうじょうあと、はくさんじょうあと、かしらさきじょうあと、ひらがしのぼち)		東広島市高屋町	昭44.4.28			現在の東広島市東北部を中心に安芸南部で活動した国人領主・平賀氏に関する遺跡群である。館城形式の御宇城跡を始め、中世末期(16世紀前半)の典型的山城跡である頭崎城跡、同じ中世末期の白山城跡や平賀氏の墓地が含まれる。 御宇城跡は、築城年代は明らかでないが、平賀氏系譜によれば少なくとも弘安元年(1278)12月以前に築城されたと考えられており、「土居の内」形式の典型的なもので外観は馬蹄型、高さ約20mで地方の館城跡として比較的規模が大きいものである。 白山城跡は、文龜3年(1503)に築城したといわれ、単純でも天然の利をいかした山城である。また、城の近くには武士の屋敷地だけでなく、市場が営まれていたなど近世城下町への過渡的性格をもっている。 頭崎城跡は、平賀氏系譜によれば、大永3年(1523)戦国争乱期に対処するため築城されたと考えられている。城跡は極めて峻峻な地を利用し、しかも各段が有機的につながっており典型的な山城である。厩には、屋敷跡や井戸跡、大工屋敷などの跡が残っている。 平賀氏の墓地は、廣明寺跡のなかに、数多くの宝篋印塔や五輪塔が残っている。		
県	天然記念物	竹仁のシャクナゲ群落	たけにのしゃくなげくらんく		東広島市福富町上竹仁字高見山、字黒ボヤ山	昭26.4.6			ホトシヤクナゲは本州中部地方以西、四国及び九州に分布し、淡紅紫色の花をつける。普通、溪谷崖上などに生育しているが、本群落のように広大な地域を占め、雑木林の中に天然のままに生育して、密度もかなり高い例は稀れである。よき生育したものは樹高3m余にも達する。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	天然記念物	鶴亀山の社叢	つるかめやまのしゃそう		東広島市河内町恵能田	昭30.9.28			本社叢の一部は、常緑広葉樹を主とし、各層にはアラカシが優占して、アラカシの純林(アラカシ・ヒサカキ分群集)の感があり、これに常緑植物が加わって暖帯林の代表的な景観を呈している。この外の部分ではアカマツツツジ科の植物が優位を占め、一部にイロハノキ・イタチモリなども生育し、アオネカズと共に本社叢の重要性を高めるものである。なお、八幡神社の前庭南東の隅には、根回り周囲4.8m、胸高幹囲4.2m、樹高約8mに及ぶアベマキの巨樹がある。		
県	天然記念物	福成寺の巨樹群	ふくじょうじのきょじゅぐん		東広島市西条町下三永	昭57.10.14			西条盆地南東部の山上、海拔約500mに位置する福成寺の境内にクロガネモチ(1株)、トチノキ(1株)、モッコク(1株)、スギ(2株)の巨樹がある。モッコクは自家が植栽か分からないが、他の木は植栽されたものと思われる。県内有数の大木で、いずれも数百年の樹齢を經ると推定される。一寺院の境内にこれだけの大木が生育していることは珍しい、学術上貴重な存在である。また、これらの木は土地の人々に崇敬されて大切に保護されながら、福成寺への信仰と共に生き延びてきたもので、歴史的にも意義が深い。		関連施設: 福成寺宝物収蔵庫 (082-426-0523, 082-423-3486)
県	天然記念物	祝詞山八幡神社のコバンモチ群落	のりやまはちまんじんじやのこばんもちぐんらく		東広島市安芸津町風早字九日面	昭59.11.19			祝詞山八幡神社の社叢は、植栽されたと思われるヒノキを別にすれば、高木層はシノキで占められ、垂高木層と低木層はコバンモチで占められている。シノキ層は、豊か山の暖帯林(常緑広葉樹林、照葉樹林)を代表する森林で、福島県及び新潟県以南の暖地に発達している。本社叢は、植物社会学的にはシノキ・コバンモチ群落に含まれるが、この群落は本来開門海峡を挟む北九州沿岸と山口県沿岸に良く発達している。しかし、三津湾沿岸のものはその飛地的な存在であり、学術上の価値は高い。		
県	天然記念物	本宮八幡神社の社叢	ほんぐうはちまんじんじやのしゃそう		東広島市豊栄町乃美字宮迫	昭62.12.21			本宮八幡神社は、豊栄町と福富町との境界にそびえる西原山(733.5m)の東側にある海拔400m内外(付近の平野との比高約25m)の丘陵地に位置し、その内側参道及び社殿の周囲に、主としてモミ、スギ、ヒノキ、ツツバネガシ、ウラジロガシなどからなる見事な社叢が発達している。モミとスギは社叢の全域にわたって、ほぼ一様に分布しているが、スギは主として社殿から前方の区域に、ヒノキは主として後方に見られる。広島県内陸部の、モミヤスギが優劣する社叢では、ウラジロガシが出現することが多いが、本社叢では、ウラジロガシは全くなく、代ってツツバネガシが多く生じ、次にウラジロガシがかなり見られる。また、本社社叢にはスギの大木が多く、胸高幹囲3mを超えるものが十数本見られる。最大の木(美人杉又は千年杉と呼ばれる)は、胸高幹囲8.4mにも達し、県内有数の巨樹である。		
県	天然記念物	畝山神社の巨樹群	うねやまじんじやのきょじゅぐん		東広島市豊栄町清武字黒岩	昭62.12.21			豊栄町のほぼ中央、海拔約400m(近くの鍛冶屋集落との比高約20m)のところに畝山神社があり、神楽殿のある細長い広場にはツツバネガシ、スギ、ヒノキの巨樹が見られ、社殿の周囲にも、ツツバネガシ、ウラジロガシ、スギ、コウヤマキ、クロマツなどの巨樹が見られる。ツツバネガシとウラジロガシは、この地方の気候的種相である自然林(モミ・カシ林)を構成する代表的樹種であり、現在地に自主して生じたものが残されて、保護されてきたと思われる。		
県	無形民俗文化財	神楽—五行祭—	かぐら—ごぎょうさい—		東広島市豊栄町	昭44.4.28			五行祭は、除穢五行説を基礎として組み立てられた祭文語り形式の神楽である。五行神楽は、広く国内に分布しているものであるが、備後地方に伝来するものなかには、語りを主とし舞を従とする古風なものが見られ、この神楽はその代表的なものである。手に扇をもって正座し、5-6時間をかけ長文の祭文を誦することによって、四季変遷の法則、人倫道徳のあり方を神楽に託して人々に教え知らせることが五行祭の主目的であり、また、神楽本来の最終の目的であったようである。		
国	登録有形文化財(建造物)	時報塔	じほうとう	1基	東広島市志和町志和郷字二ノ平	平9.9.3	鉄筋コンクリート造	大正11年(1922)建設	高さ7.8mの塔状の鐘楼で、上部にアメリカ製の鐘が懸けられている。大正11年(1922)、旧志和郷村在郷軍人会が定時動行を目的に建設した。上部を木造とする他はコンクリート造で、壁面に凹凸をつけ石造風につくる。鐘の上部にはサインを取り付け(昭和17年(1942)頃の改造)、現在でも時を告げる塔として機能し、広く親しまれている。		
国	登録有形文化財(建造物)	三永の石門	みながのせきもん	1基	東広島市西条町上三永字上弘	平10.9.2	石造アーチ橋	明治15年(1882)頃建設	旧国道2号線の開削工事に伴い分断される既設の農業用水路を確保するため、架けられた石造アーチ型の水路兼歩道橋で、明治15年(1882)頃竣工したと伝えられる。切石で組み上げたアーチ部の周囲を薄い板石で巻く独特の工法である。昭和53年(1978)に近隣に移築保存された。		
国	登録有形文化財(建造物)	呉市水道局三永水源地堰堤	くれしすいどうきよみながすいげんちえんてい	1基	東広島市西条町下三永	平11.7.8	コンクリート造堰堤	昭和18年(1943)建設	三永水源地は、東広島市西条町南東部の下三永地区に黒瀬川の支流・下三永川に築造された貯水池である。急増する水需要を賄うため、西条町の三永川に建設された重力式コンクリート造の水道用ダムである。堤長145m、堤高14mと巨大で、主堤部中央は緩やかに湾曲する。貯水量は264万トンで、貯水池周辺は公園化し森の名所として知られる。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	中の峠隧道	なかのたおずいどう	1基	東広島市西条町郷曾宇 栢原中の峠	平12.5.17	鉄筋コンクリート造アーチ口	昭和5年(1930)頃	大正15年(1926)の濁水を契機に、小田山と深道池間に建設された延長約1.5kmの農業用水路の一部である。全長327m。当初建設された程間長約0.7mの鉄筋コンクリート造アーチからなる南坑口、落盤防止のため昭和18年(1943)長さ約3.8mのRC造箱型坑道を延長する。地元の沖田嘉市が設計・施工し、工事の終わりに頃は多くの村人が協力して完成させた。		
国	登録有形文化財(建造物)	深山発電所本館(旧椋梨川発電所本館)	みやまへんでんしょほんかん (きゅうむくなしがわはつてん しょほんかん)	1棟	東広島市河内町	平19.5.15	石造平屋建、スレート葺	建築面積200㎡	大正7年(1918)に椋梨川発電所本館として竣工した石造平屋建の建造物で、現在は改修されて深山発電所本館となっている。小屋組はキングポストラスで、壁面を露出仕上げの花崗岩布積で築き、四周に配した半円アーチ開口部の間に控壁をつける。山間部の近代化を象徴する重厚なつりの洋風建築で、広島県における電力発展の歴史を示している。		
国	登録有形文化財(建造物)	明眼寺本堂	みょうげんじほんどう	1棟	東広島市福富町	平19.12.5	木造平屋建、瓦葺、建築面積299㎡		昭和13年(1938)に建築された木造平屋入母屋造、棟瓦葺の浄土真宗本堂。桁行7間、梁間9間半で、右手奥に8畳2室の座敷を張り出す。正面は吹放ちの広縁とし、正・側面には鍔玉球高欄付の切目縁を廻らし、1間向斜をつける。外陣内は、梁間4間の長大な虹梁を二支架け渡す雄大な構造を見せており、組物は肘木を斜めに出し、尾垂木を加えるなど、独特の意匠がみられる。工匠は、吉田町(現在の安芸高田市の)西谷庄一で、昭和7年には宮島大聖院観音堂の造営にもあたっている。		
国	登録有形文化財(建造物)	金原家住宅主屋	かねはらけじゅうたくおもや	1棟	東広島市	平24.8.13			湖畔の敷地に建つ。木造平屋建、建築面積231平方メートル、入母屋造(いりもやづくり)棟瓦(さんがわら)葺で下屋(げや)を廻らし、正面に軒唐破風のきからほふ付の入母屋造玄関を構える。15畳主室は座敷飾を備えて吹寄(ふきよせ)折上(おりあげ)格天井(こうてんじょう)を張るほか、随所に社寺建築の細部を取入れる。材工ともに良質な近代和風住宅。		
国	登録有形文化財(建造物)	金原家住宅離れ	かねはらけじゅうたくはなれ	1棟	東広島市	平24.8.13			主屋西側に渡廊下を介して建ち、木造平屋建、建築面積31平方メートル、入母屋造棟瓦葺である。トコ廻り(とこまわ)の畳土室と次の間を並べ、南側に便所を配する。便所壁に木瓜形の竹格子窓を穿ち、渡廊下には花頭窓を設けるなど、小規模ながら流麗なつりの離れ。		
国	登録有形文化財(建造物)	金原家住宅門	かねはらけじゅうたくもん	1棟	東広島市	平24.8.13			主屋玄関の北正面に建ち、木造平屋建、桁行(けたゆき)6.3メートル、梁間(はりま)2.4メートル、切妻(きりび)造棟瓦葺である。棟通りの中央間を開口3メートルの門口として板扉を吊り、両脇間を横板壁として西側に滑戸を開く。両側面は土壁とする。重厚な構えをもつ表門である。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造事務所	ふくびじんしゅぞうじむしょ	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造2階一部平屋建、瓦葺	建築面積147平方メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心となる敷地の南面出入口西脇に建つ。2階建て外壁を横板張とした洋風外観を持つ建物で、1階をカウンターと執務室を備えた事務室、2階を和室とする。大正期における西条の造酒屋では典型的となった出入口脇の洋風事務空間。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造一号蔵	ふくびじんしゅぞういちごうくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	土蔵造2階一部平屋建、瓦葺	建築面積694平方メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心敷地の主たる酒蔵。敷地中央北寄りに東西棟で建つ。桁行20メートル2階建土蔵の東棟と、桁行23メートル2階建土蔵の西棟を平屋建の中央棟で繋いで平面となる。造酒屋の中心建物として、計約47メートルの桁行を測る大型の土蔵。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造背戸蔵	ふくびじんしゅぞうせとくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造2階建て一部平屋建、スレート葺	建築面積209平方メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心敷地の北辺に構える土蔵で、一号蔵の背面に位置する。東西棟で、桁行26メートル平屋建の東棟と、桁行11メートル2階建ての西棟からなる。一号蔵を拡張するように東棟が、続いて西棟が増築されたと見られ、敷地北側の街路景観を成す。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造二号蔵	ふくびじんしゅぞうにごうくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積410平方メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心敷地の東辺に構える土蔵。南北棟の土蔵造2階建てで、屋根には赤瓦を葺く。小屋組は、和小屋の多い西条では希少な、キングポストトラスを組む。白漆喰を基調とした長大な外壁が造酒屋の建ち並ぶ西条の町並みの一面を構成する。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造昭和蔵	ふくびじんしゅぞうしやうわくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造平屋建、スレート葺	建築面積138平方メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心敷地の北東隅、背戸蔵から並んで東側に東西棟で建つ。平屋建てで、小屋組はキングポストトラスを組む。切妻造の屋根を架ける。内部に大型のタンクを並べるため、窓を軒下の高い位置に開ける。背戸蔵と並んで通りの景観に寄与する。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造福神寮	ふくびじんしゅぞうふくじんりやう	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造2階建、瓦葺	建築面積85平方メートル	一号蔵の西側に並んで建ち、西には従業員寮が接続する。東西棟の2階建てで、通りを面した北側には敷地形状に合わせた台形平面の下屋をかけて平屋建を張り出す。三叉路の突き当たり位置することから、黒色に塗られた下見板が白壁の土蔵群にアクセントを付ける。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造従業員寮	ふくびじんしゅぞうじゆうぎやういんりやう	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造2階建、瓦葺	建築面積120平方メートル	福神寮の西側に連続して建つ。東西棟の2階建てとする。外壁は下見板張を基調とする。1階には畳敷の更衣室と土間、2階には従業員宿舎を置く。仕込み蔵に隣接して、季節労働者としての社氏や職人らが起居する生活空間を残している点が貴重である。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造瓶詰場	ふくびじんしゅぞうびんづめじやう	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造平屋建、瓦葺	建築面積164平方メートル	事務所の西側に瓶詰場を介して建つ。東西棟の切妻造平屋建てで、赤瓦を葺く。外壁は軒下まで塗込めて土蔵風に見せるが、窓ガラスを多用して、明るい作業空間を実現する。衛生に配慮して鏡天井を張り、内部は板壁とする。漆喰壁に窓が連続する外観が特徴。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造恵比寿蔵煙突	ふくびじんしゅぞうえびすぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平28.8.1	煉瓦造	高さ24メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心敷地の中央に建つ煉瓦造煙突。高さ約24メートル。基部では一辺が約2メートルの角型で、最上部には蛇腹の装飾を施す。煉瓦をイギリス積で積み上げ、周囲の赤瓦と呼応して、土蔵の白壁に映える西条独特の造酒屋の景観を作り上げる。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造門柱	ふくびじんしゅぞうもんちゆう	1基	東広島市西条本町	平28.8.1	石造	間口6.1メートル	恵比寿蔵と呼ばれる中心敷地の南辺中央に眼(門、間口6.1メートルで、石柱2本を立てる。石柱は花崗岩製で、一辺82センチメートルの形で、高さ2.0メートル、隅を面取りし、表面には曲線の彫りを施して装飾とする。酒造所の表構えを成す。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造三号蔵	ふくびじんしゅぞうさんごうくら	1棟	東広島市西条末広町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺、井戸付	建築面積785平方メートル	大黒蔵と呼ばれる敷地中央に東西棟で建つ。土蔵造2階建て、切妻造瓦葺の屋根に赤瓦を葺く。南面に下屋を付し、井戸を構える。1階を土間とし、2階には後設の天井を張る。桁行58メートルで、東西に二分した長大な平面を持つ。創業後の拡張の過程を示す遺構。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造四号蔵北棟	ふくびじんしゅぞうよんごうくらきたとう	1棟	東広島市西条末広町	平28.8.1	土蔵造2階建、スレート葺	建築面積406平方メートル	大黒蔵と呼ばれる敷地の東側北寄りに南北棟で建つ。土蔵造2階建て、切妻造。小屋はキングポストトラスを組む。西面には二重梁で下屋をかける。北面には板壁を張り、窓には漆喰塗込の格子をはめて堅固に見せる。敷地いっぱいに酒蔵が建ち並ぶ独特な美観を成す。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造四号蔵南棟	ふくびんしゅぞうようごうらみなみどう	1棟	東広島市西条末広町	平28.8.1	土蔵造2階建、スレート葺	建築面積406平方メートル	大黒蔵と呼ばれる敷地の東側北寄りに南北棟で建つ。土蔵造2階建、切妻造。小屋はキングポストラスを組む。西面には二重梁で下屋をかける。北面には板壁を張り、窓には漆喰塗込の格子をはめて堅固に見せる。敷地いっぱい酒蔵が建ち並ぶ独特な美観を成す。		
国	登録有形文化財(建造物)	福美人酒造三号蔵煙突	ふくびんしゅぞうさんごうくらくえんとつ	1基	東広島市西条末広町	平28.8.1	煉瓦造	高さ27メートル	大黒蔵と呼ばれる敷地の中央、三号蔵の南に附属して建つ。基部で一边2.2メートルを測る角型のイギリス積煉瓦造煙突で、高さは27メートルになる。安芸津町で焼いた煉瓦を用いたという伝えがあり、西条に現存する煉瓦造煙突では最も高いものとなる。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造店舗兼主屋	かもいずみしゅぞうてんぼけんしゅおく	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	木造2階建、瓦葺	建築面積179平方メートル	通りに北面して建つ。平面は、東に土間を通し、西に2列6室の室を並べる。西列中室を仏間、奥室を10畳の主座敷とし、本格的な座敷飾を備える。正面側には2階を設ける。正面外観は開口部の縦格子を基調とし、2階には袖壁を設けて伝統的な町家の趣となる。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造新座敷	かもいずみしゅぞうしんざしき	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	木造2階建、瓦葺	建築面積229平方メートル	店舗兼主屋の西側に接続して建つ。南には重森三鈴作の庭が広がり、そちらへの眺望を意図して広い縁を廻らす。東寄りに東西続きの3室を、西寄りに南北続きの2室を配し、それぞれ数寄屋意匠を凝らした座敷飾りや天井を持ち、接客を意識した建物である。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造土蔵	かもいずみしゅぞうどぞう	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積16平方メートル	新座敷の北西に接続して建つ内蔵。元は主屋の西に接して建てていたというが、新座敷建設時に現在地へ移家された。1階裏面に鉄格子付の窓を二つ並べるほかは窓を持たない閉鎖的な空間となる。北面には水切瓦を1列入れて、外観上の特徴とする。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造門及び塀	かもいずみしゅぞうもんおよびへい	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	門 木造、瓦葺 塀 木造、瓦葺	門 間口2.7メートル 塀 延長15メートル	敷地北辺を面す門及び塀で、店舗兼主屋から土蔵までを繋ぎ、新座敷の玄関前に門を開く。門は薬医門形式で切妻造瓦葺とする。塀は真壁造として、通りに面した側は、下部に板を張り、上部を鼠漆喰で仕上げる。いずれも赤瓦を葺いて、通りの景観を印象付ける。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造前蔵	かもいずみしゅぞうまえくら	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積199平方メートル	店舗兼主屋から通りを挟んだ北側に南面して建つ。2階建の土蔵で、小屋組はキングポストラスとする。外壁は白漆喰で、腰は水平に瓦を貼る海風壁とし、妻側上部には水切瓦を入れる。店舗兼主屋や門及び塀と共に酒蔵の建ち並ぶ旧西国街道の景観を構成する。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造通路棟	かもいずみしゅぞうつうどう	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積159平方メートル	店舗兼主屋の南辺東端と、中蔵及び東蔵の北辺とを結び、西辺は火蔵と接続する南北棟の建物。土蔵造2階建で、現在は各土蔵と店舗兼主屋を繋ぎ、商品倉庫として用いられているが、当初は酒蔵として建てられたと見られる。賀茂泉酒造創業時期の状況を伝える。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造火蔵	かもいずみしゅぞうひくら	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積355平方メートル	通路棟の西に接続する2階建土蔵。北東棟と南西棟の2棟を包摂して東西棟の1棟となったもの。重森三鈴が新座敷に作庭した後、その指示に従って海風壁を貼る改修を行い、庭園の背景として調和させた。酒造のみならず、庭園空間の構成要素となる土蔵である。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造中蔵及び東蔵	かもしずみしゅうなかくらおよびひがしくら	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積324平方メートル	通路棟の南に接続して建つ。1階の通路を挟んで東を東蔵、西を中蔵と呼ぶが、東西棟の1棟である。土蔵造2階建て、外壁は白漆喰塗の大壁とする。窓には漆喰塗込の格子を立て、東妻側には水切瓦を入れる。赤瓦を葺く規模の大きな酒蔵である。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂泉酒造煙突	かもしずみしゅうえんとつ	1基	東広島市西条上市町	平28.8.1	煉瓦造	高さ約18メートル	中蔵及び東蔵の東に立つ煉瓦造煙突。角型で、基部が一辺1.6メートル、高さ17.7メートルとなる。煙突の上部には虹吸の装飾を施す。他の西条の煉瓦造煙突と同様、煉瓦をイギリス積とする。使用は停止されたが、象徴的な景観として親しまれている。		
国	登録有形文化財(建造物)	旧広島県西条清酒醸造支場本館	きゅうひろしまけんさいじょうせいしゅじょうぞうしじょうほんかん	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	木造2階建、瓦葺	建築面積101平方メートル	広島県食品工業試験場の支場として開設された。賀茂泉酒造の南に敷地を構える。本館は北面して建つ南北棟半切妻の2階建洋館で、元は1階が実験室、2階が事務室である。正面には付柱に庇を設け、ポーチとする。醸造技術開発の拠点として用いられた施設。		
国	登録有形文化財(建造物)	旧広島県西条清酒醸造支場精米所	きゅうひろしまけんさいじょうせいしゅじょうぞうしじょうせいまいじょ	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	木造平屋建、スレート葺	建築面積138平方メートル	本館の南に通り廊下を介して接続して建つ。南北棟の平屋建であるが、酒造用の精米機の高さに合わせて棟の高さを造り、南に向けて3段に高めてゆく特徴的な立面を持つ。外壁を横板壁とし、切妻造の屋根頂部にはフィニアルを掲げて洋風意匠を見せる。		
国	登録有形文化財(建造物)	旧広島県西条清酒醸造支場醸造蔵	きゅうひろしまけんさいじょうせいしゅじょうぞうしじょうぞうくら	1棟	東広島市西条上市町	平28.8.1	鉄筋コンクリート造2階建、瓦葺	建築面積396平方メートル	本館の東方、賀茂泉酒造火蔵の南方に東西棟で建つ。南には下屋を架けて張り出す。鉄筋コンクリート造2階建の醸造蔵で、小室は鋼製のアングル材を用いてキングポストトラスに組む。西条の醸造施設としては最も古い鉄筋コンクリート造施設の一つとなる。		
国	登録有形文化財(建造物)	旧広島県西条清酒醸造支場煙突	きゅうひろしまけんさいじょうせいしゅじょうぞうしじょうえんとつ	1基	東広島市西条上市町	平28.8.1	鉄筋コンクリート造	高さ19メートル	醸造蔵に附属する煙突で、醸造蔵の南に立つ。鉄筋コンクリート造の丸型煙突で、基部の直径は約1.3メートル、高さは約19メートルとなる。大阪鐵筋混泥土工務所の施工。醸造蔵と共に、西条の鉄筋コンクリート造施設としては最も古いものの一つ。		
国	登録有形文化財(建造物)	旧広島県西条清酒醸造支場門柱	きゅうひろしまけんさいじょうせいしゅじょうぞうしじょうもんちゅう	1基	東広島市西条上市町	平28.8.1	コンクリート造	間口4.6メートル	旧広島県西条清酒醸造支場の正門として立てられた。鉄筋コンクリート造の門柱で、表面は洗い出し仕上げとする。側面の隅部には3段の段縁を施して装飾とする。門柱の上部には照明用ブラケットの金具があり、元は上部に照明が付いていたと見られる。		
国	登録有形文化財(建造物)	亀齢酒造洋館	きれいしゅぞうやうかん	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造平屋建、瓦葺	建築面積18平方メートル	敷地の南辺西寄りに接続して建つ。北は事務所と接続する。屋根は半切妻の棟瓦葺とする。平屋建の洋風建物で、内部は一室の応接間として用いられる。天井は蜀江文様形の格天井とする。窓は上げ下げ窓とする。洋風建物を併設した西条の造酒屋の典型例。		
国	登録有形文化財(建造物)	亀齢酒造一号蔵	きれいしゅぞういちごうくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積642平方メートル	中心敷地の東辺北寄りに南北棟を建て、更に北辺に沿って東西棟を接続した矩折れの平面を持つ。南北棟は桁行34メートルで土蔵造2階建、西面に下屋を付す。東西棟は桁行17メートルの土蔵造2階建、西端を半切妻とする。外壁の白漆喰に赤瓦が映える。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	亀齢酒造一号蔵煙突	きれいしゅぞういちごうらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平28.8.1	煉瓦造	高さ24m	中心敷地の中央に建つ。煉瓦造の角型煙突で、基部は一边が1.9メートルとなる。高さは24メートル。煉瓦は西条の煉瓦造煙突でよく見られるイギリス種とする。上部には蛇腹を付けて裝飾を施す。街中に屹立する煙突の1本で、酒造りの町を特徴付けている。		
国	登録有形文化財(建造物)	亀齢酒造門柱	きれいしゅぞうもんちゅう	1基	東広島市西条本町	平28.8.1	石造、脇柱付	間口5.4メートル	洋館の東脇。敷地南辺の中央に開く門。洋館の曳家と併せて立てたという。花崗岩製の門柱で、西側の柱には金属製表札をはめる。一边が2.5メートル。表面を磨(こ)出しとして仕上げ、隅を唐戸面のように取って立体感を出し、表構えを作る。		
国	登録有形文化財(建造物)	亀齢酒造五号蔵	きれいしゅぞうごごうら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積597平方メートル	中心敷地から道を挟んで北東の敷地に構える土蔵。中央棟は東西棟の2階建てで、東を切妻、西を入母屋造とする。中央棟を増築する形で、敷地いっぱい北棟を並行して建てる。北棟は白漆喰の外壁に、腰には彫子(ささら)下見を張って、街路景観を形成している。		
国	登録有形文化財(建造物)	亀齢酒造七号蔵煙突	きれいしゅぞうなごうらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平28.8.1	煉瓦造	高さ約20メートル	中心敷地から150メートルほど北東の敷地に建つ七号蔵に附属する煙突。戦後の一時期、ここで醤油醸造が行われており、その施設の一部と伝わる。基部の直径が1.7メートル、高さ19.5メートルで、西条地区に唯一残る円形の煉瓦煙突となる。		
国	登録有形文化財(建造物)	西條鶴醸造店舗兼主屋	さいじょうつるしゅうぞうてんぼけんしゅおく	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造2階建、瓦葺	建築面積155平方メートル	南北に細長い敷地の南西端に接道して建つ店舗兼主屋。正面西側には跳ね上げ式の大戸を介して土間を通し、東側に居室を並べる。正面から2室目の4畳半を居室への上り口とし、背面側の6畳座敷には床廻りには銘木を用いるなど意匠を凝らす。		
国	登録有形文化財(建造物)	西條鶴醸造角屋	さいじょうつるしゅうぞうつのや	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	木造2階一部3階建、スレート葺、井戸付	建築面積85平方メートル	店舗兼主屋の背面に接して建つ。1階は主に土間とし、2階に居室を配す。南寄りには望楼状の3階を設け、室内は洋風意匠でまとめる。内部に「天保井水」と称される井戸を構える。屋根周りもスレート葺とするなど、敷地内の意匠上のハイライトとなる建築である。		
国	登録有形文化財(建造物)	西條鶴醸造酒宝蔵醸造蔵	さいじょうつるしゅうぞうしゅほうくらしゅうぞうくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積153平方メートル	敷地背面寄りの酒宝蔵と呼ばれる一連の蔵のうち、南寄りに建つ。桁行10間、梁間4間半で、土蔵造2階建て、切妻造平入の赤瓦葺。壁は漆喰塗で外側を大壁。内部は真壁とする。小屋組はトラスで、東半のみ2階板床を張る。敷地の中で醸造機能の中核をなす建物。		
国	登録有形文化財(建造物)	西條鶴醸造酒宝蔵仕込蔵	さいじょうつるしゅうぞうしゅほうくらしこみくら	1棟	東広島市西条本町	平28.8.1	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積221平方メートル	敷地背面寄りの酒宝蔵と呼ばれる一連の蔵のうち、北寄りに建つ。桁行10間梁間6間で、やや不整形の平面とする土蔵造赤瓦葺。小屋組はトラスで、東半の一部を吹き抜けとする。壁は漆喰塗で背面側は腰下見板張、内部は真壁とする。格子窓が並ぶ外壁が特徴的。		
国	登録有形文化財(建造物)	西條鶴醸造酒宝蔵煙突	さいじょうつるしゅうぞうしゅほうくらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平28.8.1	煉瓦造	高さ19メートル	敷地中央、角屋の西側に位置する。方形の煉瓦造煙突で、基部の一边1.7メートル、高さ19メートル。醸造蔵の南に位置する釜場から煙道を介してこの煙突に排出される。醸造業が集中し、煙突が数多く残る西条の景観を特徴付ける。		

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	山陽鶴酒造黒松一号蔵	さんようつるしはせうくろまついちごうくら	1棟	東広島市西条岡町	平28.8.1	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積207平方メートル	敷地の南寄りに建つ。切妻造平入の大規模な土蔵造2階建て、桁行6間、梁間5間の主体部に、西面と南面に下屋が取り付く。外壁は下見板張りで、小屋はトラス。屋根は桧瓦葺である。広大な赤瓦の屋根面と妻面で、西条の景観を形作る建物である。		
国	登録有形文化財(建造物)	山陽鶴酒造黒松二号蔵	さんようつるしはせうくろまつにごうくら	1棟	東広島市西条岡町	平28.8.1	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積179平方メートル	黒松一号蔵の背面に妻を接して建つ。土蔵造2階建て、桁行10間、梁間5間で、南北棟の長方形平面である。内部は前半のみ2階床を張り、北側は吹き抜けとする。小屋組はトラスで、陸梁と合掌材には丸太材を用いる。長大な屋根面が地区の景観を特徴付けている。		
国	登録有形文化財(建造物)	山陽鶴酒造黒松三号蔵	さんようつるしはせうくろまつさんごうくら	1棟	東広島市西条岡町	平28.8.1	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積78平方メートル	黒松二号蔵の東側に、やや軸を振って建つ。桁行5間、梁間4間の2階建土蔵造で、全面に2階床を張るが、階段は設けず、2階には二号蔵から出入りする。外壁は下見板張り、内壁は漆喰塗真壁とする。街路に面した下見板張りが往時の景観を今に伝えている。		
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造本社事務所	かもつるしはせうほんしゃむしよ	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	木造2階建, 瓦葺	建築面積108㎡			昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造研究室棟	かもつるしはせうけんきやうしつとう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	木造平屋建, 瓦葺	建築面積34㎡			昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造二号蔵東西棟	かもつるしはせうにごうくわらとうざいとう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積723㎡			明治後期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造二号蔵南北棟	かもつるしはせうにごうくわらなんぼくとう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積625㎡			明治後期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造二号蔵東井戸	かもつるしはせうにごうくわらひがしいど	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	石造	面積1.7㎡			明治後期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造二号蔵西井戸	かもつるしはせうにごうくわらにしいど	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	石造	面積2.6㎡			明治後期

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造二号蔵煙突	かもつるしほぞうにこうぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	煉瓦造	面積2.1㎡	西条の酒蔵群の北寄りに位置する。敷地南端に建つ洋風意匠の本社事務所。研究室棟の背後に二号蔵、三号蔵、四号蔵、八号蔵が建ち並び、それぞれの井戸・煙突なども建つ。蔵は造り出しの下部を海風壁とし、酒造の街の特色ある景観を形成。また、いずれも規模の大きな建物で、特にL字型平面を持つ三号蔵の二階部分は、内部に間仕切りを設けず長大な一室とするなど、見所も多い。煉瓦造の煙突はそれぞれ上部に「賀茂鶴」、「賀茂鶴第三醸造場」、「賀茂鶴第四醸造場」などの文字を掲げ、地域のランドマークとして広く親しまれている。蓬萊庵画室棟は東京都文京区の日本画家児玉希望自邸内の画室及び茶室を移築したものである。		明治後期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造三号蔵	かもつるしほぞうさんこうぐら	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積918㎡			大正前期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造三号蔵煙突	かもつるしほぞうさんこうぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	煉瓦造	面積3.6㎡			大正前期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造四号蔵	かもつるしほぞうよんこうぐら	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積1,099㎡			大正後期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造四号蔵井戸	かもつるしほぞうよんこうぐらいど	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	石造	面積3.4㎡			大正後期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造四号蔵煙突	かもつるしほぞうよんこうぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	煉瓦造	面積3.2㎡			大正後期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造八号蔵煙突	かもつるしほぞうはちこうぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	煉瓦造	面積2.4㎡			昭和前期	
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造蓬萊庵画室棟	かもつるしほぞうほうらいあんがしつどう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	木造平屋建、瓦葺	建築面積93㎡				昭和前期/平成17年移築
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造一号蔵西棟	かもつるしほぞういちこうぐらにしとつ	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積528㎡				明治前期/大正期・昭和前期増築、平成28年改修

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造一号蔵東棟	かもつるしゅざういちごうくらひがしどう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積175㎡			明治前期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造一号蔵北土蔵	かもつるしゅざういちごうくらきたどぞう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積31㎡			明治前期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造一号蔵南土蔵	かもつるしゅざういちごうくらみなみどぞう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造平屋建, 瓦葺	建築面積41㎡			明治前期
国	登録有形文化財(建造物)	賀茂鶴酒造一号蔵井戸	かもつるしゅざういちごうくらいど	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	石造	面積3.2㎡			明治前期
国	登録有形文化財(建造物)	旧石井家住宅主屋	きゅういしいけじゅうたくしゅおく	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	木造2階建, 瓦葺	建築面積171㎡	酒造業者の住宅主屋と土蔵。いずれも大正期に建てられたもので、正面右手に土間を通し、左手に居室を設ける。		大正期
国	登録有形文化財(建造物)	旧石井家住宅土蔵	きゅういしいけじゅうたくどぞう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積45㎡			大正期
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造延宝蔵南端棟	はくぼたんしゅざうえんぼうぐらんたんどう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積115㎡	旧西国街道に面し、西条の酒蔵群の南西寄りに位置する。敷地の西側に長い立面を見せる南端棟、その北に伸びるL字型平面の北端棟と、石造の重厚な井戸屋形を備える井戸、煉瓦造の煙突が並ぶ。		江戸中期／江戸後期・昭和中期改修
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造延宝蔵北端棟	はくぼたんしゅざうえんぼうぐらほくたんどう	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積505㎡			明治前期／昭和34年増築
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造延宝蔵井戸	はくぼたんしゅざうえんぼうぐらいど	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	石造	面積2.7㎡			江戸中期／昭和中期改修

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造延宝蔵煙突	はくぼたんしゅぞうえんぼうぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	煉瓦造	面積3.7㎡			明治前期
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造天保蔵仕込蔵	はくぼたんしゅぞうてんぼくらしこみぐら	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積307㎡			昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造天保蔵精米所	はくぼたんしゅぞうてんぼくせいまいしよ	1棟	東広島市西条本町	平29.6.28	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積121㎡			明治後期/昭和36年頃増改築
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造天保蔵井戸	はくぼたんしゅぞうてんぼくらいど	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	石造	面積1.1㎡			江戸末期
国	登録有形文化財(建造物)	白牡丹酒造天保蔵煙突	はくぼたんしゅぞうてんぼぐらえんとつ	1基	東広島市西条本町	平29.6.28	煉瓦造	面積2.8㎡			明治前期
国	登録有形文化財(建造物)	小島屋土蔵	こじまやどぞう	1棟	東広島市西条本町	平29.10.27	土蔵造2階建, 瓦葺	建築面積28㎡	延宝蔵から旧西国街道を挟んで南東方に位置する。昭和前期に建てられた大規模な蔵である仕込蔵。敷地南方に位置する精米所、及び井戸と煉瓦造の煙突が並ぶ。煙突は地域の煉瓦造煙突の中でもひときわ高く「白牡丹」の字を掲げてランドマークとなっている。		天保7(1836)年/平成28年改修
国	登録有形文化財(建造物)	榎野家住宅主屋	えのけじゅうたくしゅおく	1棟	東広島市西条土与丸	平30.11.2	木造2階建, 瓦葺	建築面積94㎡			明治2年頃/昭和55年頃改修
国	登録有形文化財(建造物)	伊原家住宅主屋	いはらけじゅうたくしゅおく	1棟	東広島市高屋町白市	平30.11.2	木造2階建, 瓦葺	建築面積289㎡			大正5年頃/昭和30年頃改修
国	登録有形文化財(建造物)	伊原家住宅茶室	いはらけじゅうたくちゃしつ	1棟	東広島市高屋町白市	平30.11.2	木造平屋建, 銅板葺	建築面積20㎡			大正前期/昭和50年頃改修

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考	
国	登録有形文化財(建造物)	伊原家住宅門及び塀	いはらけじゅうたくもんおよびへい	1棟	東広島市高屋町白市	平30.11.2	門:木造,瓦葺 塀:木造,瓦葺	門:間口1.6m 塀:総延長13m			大正5年頃	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造離れ	かねみつしゅうぞうはなれ	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	木造平屋建,瓦葺	建築面積75㎡			大正後期	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造瓶詰所	かねみつしゅうぞうびんづめしょ	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	木造二階建,瓦葺	建築面積50㎡			大正前期	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造包装所	かねみつしゅうぞうほうそうじょ	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	土蔵造二階建,瓦葺	建築面積61㎡			明治前期	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造仕込蔵	かねみつしゅうぞうしこみくら	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	土蔵造二階建,瓦葺	建築面積409㎡			明治前期/明治後期増築	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造貯蔵蔵	かねみつしゅうぞうちようくら	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	土蔵造二階建,瓦葺	建築面積315㎡	金光酒造は東広島市の南西部、黒瀬川流域に位置する。離れは主屋(登録範囲外)の南側に渡り廊下をかして建つ。磨き丸太の縁桁(えんげた)など数寄屋意匠を取り入れた酒家の離れ。瓶詰所は住宅の一部を、包装所は家財蔵を、それぞれ転用したもので、醸造施設の一部を構成する建物。仕込蔵は土蔵造り2階建てで、1階で仕込みを行う醸造施設の主要な建物。貯蔵蔵は仕込蔵に接して建つ、桁行39mと長大な土蔵。周囲からよく見え、酒造場の景観を形成している。井戸小屋は木造平屋建てで、四隅に柱を立て、中央に石造で井桁を組んだ井戸を配す。酒造りに欠かせない水を供給する施設。門及び塀は主屋から東に延びる塀の中央に一間家医門を開く。煙突は高さ12mのイギリス積み煉瓦造で、地域のシンボルとなる。			明治後期/大正後期増築
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造井戸小屋	かねみつしゅうぞういどごや	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	木造平屋建,瓦葺	建築面積11㎡			昭和前期	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造門及び塀	かねみつしゅうぞうもんおよびへい	1棟	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	門:木造,瓦葺 塀:木造,瓦葺	門:木間口1.9m/塀:総延長5.6m			昭和前期	
国	登録有形文化財(建造物)	金光酒造煙突	かねみつしゅうぞうえんとつ	1基	東広島市黒瀬町乃美尾	令2.4.3	煉瓦造	高さ12m			昭和前期	

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	神山八幡神社本殿	さかきやまはちまんじんじや ほんでん	1棟	東広島市安芸津町三津	令2.4.3	木造平屋建, 銅板葺	建築面積22㎡	神山八幡神社は瀬戸内海を臨む丘の上にある神社。本殿は明治40年の建築で、境内の奥に南面して建つ。重厚なつり。拝殿及び幣殿は本殿正面の石段下に建ち、社頭(しゃづ)景観を重厚に演出している。神門及び扉は本殿の四角を囲繞(しじょう)する門とす。神門は一面筋木門で、森厳(しんげん)な本殿回りの景観を整えている。松尾神社本殿は酒造関係者が松尾大社から勧請(かんじよう)したもので、地域の酒造業繁栄の歴史を物語る社殿。護国神社本殿は拝殿前方の参道に建つ。村内戦没者を祀る社殿。隨身門は三間一戸八脚門(さんげんいっこはつきやもん)で、境内で唯一の近世建築。		明治40年/昭和前期改修
国	登録有形文化財(建造物)	神山八幡神社 拝殿及び幣殿	さかきやまはちまんじんじや はいでんおよびはらいてん	1棟	東広島市安芸津町三津	令2.4.3	木造平屋建, 銅板葺	建築面積149㎡			明治40年/昭和58年改修
国	登録有形文化財(建造物)	神山八幡神社 神門及び扉	さかきやまはちまんじんじや しんもんおよびい	1棟	東広島市安芸津町三津	令2.4.3	門:木造, 瓦葺, 間口1.8m/扉:木造, 瓦葺, 総延長76m	門:間口1.8m/扉:総延長76m			昭和15年
国	登録有形文化財(建造物)	神山八幡神社 松尾神社本殿	さかきやまはちまんじんじや まつおじんじやほんでん	1棟	東広島市安芸津町三津	令2.4.3	木造平屋建, 銅板葺	建築面積3.5㎡			昭和4年頃
国	登録有形文化財(建造物)	神山八幡神社 護国神社本殿	さかきやまはちまんじんじや ごくじんじやほんでん	1棟	東広島市安芸津町三津	令2.4.3	木造平屋建, 銅板葺	建築面積7.3㎡			昭和28年頃
国	登録有形文化財(建造物)	神山八幡神社 隨身門	さかきやまはちまんじんじや ずいじんもん	1棟	東広島市安芸津町三津	令2.4.3	木造平屋建, 銅板葺	建築面積18㎡			天明2年(1782)頃/昭和10年代改修
国	登録有形文化財(建造物)	太田家住宅主屋	おおたけじゅうたくおもや	1棟	東広島市西条岡町	令3.2.4	木造2階建, 瓦葺	建築面積201㎡		旧西園街道に面する大規模町家。主屋は二階建て入母屋造り赤色棧瓦葺まで正面に下屋を通し、中央を平格子。西を出格子とし、二階は黒カイル貼りの重厚な外観とする。敷地北端の離れの座敷は床の左右に床脇と書院を	
国	登録有形文化財(建造物)	太田家住宅茶室棟	おおたけじゅうたくちゃしつどう	1棟	東広島市西条岡町	令3.2.4	木造平屋建, 瓦葺	建築面積71㎡			昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	太田家住宅離れ	おおたけじゅうたくはなれ	1棟	東広島市西条岡町	令3.2.4	木造平屋建, 瓦葺	建築面積95㎡			昭和前期

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	登録有形文化財(建造物)	太田家住宅南土蔵	おおたけじゅうたくみなみどぞう	1棟	東広島市西条岡町	令3.2.4	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積26㎡	遠り、良材を用いて端正な意匠でまとめ、主屋と離れの間に建つ茶室は六畳と四畳半茶室からなり、数寄屋意匠をとる。敷地東に建つ南土蔵、北土蔵はいずれも二階建て切妻造り檜瓦葺き。薬医門形式の門及び左右障は、主屋とともに町並みに良好な景観を形成する。		昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	太田家住宅北土蔵	おおたけじゅうたくきたどぞう	1棟	東広島市西条岡町	令3.2.4	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積24㎡			明治後期/昭和前期 移築
国	登録有形文化財(建造物)	太田家住宅門及び塀	おおたけじゅうたくもんおよびへい	1棟	東広島市西条岡町	令3.2.4	門:木造瓦葺、間口1.8m 塀:木造瓦葺、延長33m	門:間口1.8m 塀:延長33m			昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	岡田家住宅主屋	おかだけじゅうたくおもや	1棟	東広島市西条本町	令3.2.4	木造2階建、瓦葺	建築面積212㎡	市中心部にある清閑屋を営む商家。主屋は入母屋造り妻入りで黒タイル貼りの二階は両端に袖卯建(そでうたづ)を掲げる。兩脇に建つ漆喰塗りの土蔵とともに旧西国街道の歴史的景観を形成する。		昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	岡田家住宅土蔵	おかだけじゅうたくどぞう	1棟	東広島市西条本町	令3.2.4	土蔵造2階建、瓦葺	建築面積37㎡			昭和前期
国	登録有形文化財(建造物)	大藤家住宅主屋	おおとうけじゅうたくおもや	1棟	東広島市高屋町白市	令4.2.17			白市中心部に建つ旧酒造業の店舗兼住宅。二階建入母屋造妻入檜瓦葺(いりもやぶりつまいりさん)がわらぶきで、東正面を出だし桁造(いたづり)、北側面軒廻(のきまわり)を漆喰(しっくい)塗込とする。正面にガラス引違戸と格子を構え、内部は南にガラス窓を多用した開放的な通り土間、北にミセ等四室並べる。昭和初期の白市の繁栄を示す。		昭和4年頃/昭和50年頃改修
国	登録有形文化財(建造物)	保手清家住宅主屋	ほてはまけじゅうたくおもや	1棟	東広島市高屋町白市	令4.2.17			白市中心部に西面して建つ町家。つし二階建、切妻造(きりまづり)平入檜瓦葺(ひらいりさんがわらぶき)。正面に一間半の下屋(げや)を並下す。二階つし部分は奥行二階。中央に玄関を構えて廊下を通し、南北各三室を並べるが廊下、正面側の部屋はもと土間と伝わる。西条盆地の町家の変遷を伝える貴重な遺構。		明治17年/昭和50年頃改修
国	登録有形文化財(建造物)	伊原惣十郎家住宅主屋	いはらそうじゅうろうけじゅうたくおもや	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	木造二階建、瓦葺	建築面積319㎡			(令和6年11月22日登録答申)
国	登録有形文化財(建造物)	伊原惣十郎家住宅離れ及び茶室	いはらそうじゅうろうけじゅうたくはなれおよびちゃしつ	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	木造平屋建、瓦葺	建築面積74㎡	白市の本町通りに南面する精物商の屋敷で、主屋、離れ及び茶室、三階蔵、門及び塀からなる。通りに面する主屋は2階建て入母屋造りで、一階出格子に大振り金具を付す精物商らしい町家。主屋の北東に位置する離れ		(令和6年11月22日登録答申)

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考	
国	登録有形文化財(建造物)	伊原惣十郎家住宅三階蔵	いはらそうじゅうろうけいじゅうたくさんかいぐら	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	土蔵造三階建、瓦葺	建築面積23㎡	は南を式台とした三畳の続き間座敷で、西に縁を付す。四畳半の茶室とともに上質なつくり。主屋の北東に位置する三階建ての家財蔵で緑物高の景観を伝える。間は正面に石段を設けた、一間扉狐門で、門口の板扉に八双金具を付す。主屋に連なり歴史的な景観をつくる。主屋は現在、飲食店として活用。		(令和6年11月22日登録答申)	
国	登録有形文化財(建造物)	伊原惣十郎家住宅門及び塀	いはらそうじゅうろうけいじゅうたくもんおよびへい	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	木造、瓦葺	門:間口2.4m 塀:総延長13m			(令和6年11月22日登録答申)	
国	登録有形文化財(建造物)	大藤家住宅離座敷	おおとうけいじゅうたくはなれざしき	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	木造二階建、瓦葺	建築面積76㎡			(令和6年11月22日登録答申)	
国	登録有形文化財(建造物)	大藤家住宅釜場	おおとうけいじゅうたくかまば	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	木造平屋建、瓦葺	建築面積93㎡		白市中心部に位置する旧酒造業の屋敷。既登録の主屋の西に建つ離れ座敷、釜場、土蔵からなる。離れ座敷は二階建てで主屋と二階建ての渡廊下で接続。二階は東西の続き間座敷を配し、端正なつくり。主屋の北西に位置する釜場は、平屋建てで南面東寄りを吹放ちとする。醸造用の半地下の釜場などを残し、酒造業の様相を伝える。土蔵は家財蔵で窓少なく重厚な外観で敷地西方の歴史的な景観を形成。		(令和6年11月22日登録答申)
国	登録有形文化財(建造物)	大藤家住宅土蔵	おおとうけいじゅうたくどぞう	1棟	東広島市高屋町白市	※未告示	土蔵造二階建、瓦葺	建築面積20㎡				(令和6年11月22日登録答申)
国	登録有形文化財(記念物)	前垣氏庭園(寿延庭)	まえがきしていえん(じゅえんてい)		東広島市西条上市町	平28.3.1	本庭、前庭、中庭		前垣氏庭園は、東広島市で酒造業を営む前垣氏の邸宅に造られた枯山水庭園であり、庭園研究者で作家でもあった重森三玲が設計を行った。作庭に当たって重森は昭和30年12月に前垣氏宅に滞在し、自ら指示をした。庭園は本庭、前庭、中庭の三つの部分から成る。邸宅の座敷に面する本庭は、白砂敷(しらすじき)で水面が表現され、左右からの細長い出島を主とする陸地部分には苔が貼られている。水面と陸地部分が接する汀線は入り組み、砂の白さと苔の深い緑色が対照を成す。また、建物の縁先には洲浜にならえた敷石が並べられ、その水際をうねるような曲線を描く。正面中央に大ぶりの景石を据え、福承に立石・伏石を配置する。前庭は表門と玄関の間に造られ、三つの苔地の雲山、直打ちの飛石を配し、その他の部分は白砂敷にしている。中庭は周囲を囲まれた坪庭で、三つの景石と飛石、番脱石を配し、それ以外の部分に白砂を敷く。三つの庭園は位置的に独立し、それぞれの意匠も異なるが、立石を中心に白砂、苔等の材料を用いて作られた空間は、多くの枯山水庭園を残した重森の作風がよく表れている。造園当初の姿を今日までよく伝えており、造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。			